

DAIDO CAMPUS

大同工大キャンパス

No.54 2006.1



次をつくる人をつくる

大同工業大学



巻頭特集 / 学長、宇宙に還る。
「学長の2005年、そして2006年の初夢」

2005年NEWS

DIT『愛・地球博』に参加! / 燃料電池開発でNEDOと契約 /
文部科学省「特色GP」採択 / ロボティクス学科新設と学科改組
体育大会 / レガッタ大会
アメリカ短期留学
学生の活躍: クラブ活動報告ほか
元気印の卒業生 山口豊氏・仲井友崇氏
就職トピックス / トピックス / 巻末トピックス

体育大会・3on3 シュートの瞬間 (写真提供: アルバム委員会)

巻頭 特集

学長、宇宙に還る。 「学長の2005年、 そして2006年の初夢」



ディスカバリー号のコリンズ船長と澤岡学長

2005年の澤岡学長は、スペースシャトル再飛行の報道番組に多数出演。まさに「時のひと」となった。その裏舞台と学長の初夢についてインタビューした。

Q 編集部:生放送・録画を含めて24回テレビ番組に出演された学長。そのきっかけは?

A 2年前にスペースシャトル・コロンビア号の事故調査委員会報告書を読む機会がありました。それがきっかけとなってコロンビア号の事故を再検証する本を出版しました。その後、シャトルの打上げが再開されることになり、2005年7月にディスカバリー号が打上げられることになりました。ところが、打上げ前にトラブルが発生したんですね。そのときテレビ局で報道番組を担当しているスタッフは、シャトルの安全性や宇宙空間のことについてコメントを述べるができる人物を探していた。そんな時、みのもんたさんの番組「みのもんたの朝ズバッ!」のスタッフが偶然私の本を見つけた。といったことから7月14日のみのもんたさんの番組に出演することになったんです。すると、説明が分かりやすかったということで、他のテレビ局からも出演依頼が殺到して、結局NHKを含めて全部で24回、テレビ番組に出演することになったんです。

Q 番組に出演されたときの印象はいかがですか?

A 大きく驚いたことが2つありました。一つは、テレビ番組はこうして作られるんだなあということ。強力なリーダーが大きなチームを統括して作っていると思っていたのですが、実際は小さなグループなんですね。しかも、同じ番組でも曜日ごとにプロデューサーは違うんです。そんな彼らが日替わりで競っている。そこに怪物のようなタレントを起用して、十分な打ち合わせもないまま本番で瞬間的な受け答えをする。その緊張感の中で番組が出来上がるんだなと思いました。でも、もしそのやりとりが間違った方向に向かってしまったら、影響を受けやすい日本人がどうなるかという怖さを感じました。もう一つは、現場に女性が多いこと。全体の2/3は女性だったと思います。連絡担当者もそうだし、アシスタント・ディレクターなど現場スタッフにも女性が多かったです。しかも仕事内容はハード。放送の2日前から徹夜はあたり前だとか。彼女達の果たす役割が番組を作る上でとても重要です。企画から制作まで携わっている彼女達は日々競争して、番組を作り上げているようでした。それはまるで、女性が現在の日本を動かしているようにも感じました。

Q TBS「みのもんたの朝ズバッ!」では、ドキッとされたそうですね。

A スペースシャトルの飛行高度など、聞かれそうなことは前もって調べておいたのですが、番組の本番で、もんたさんはいきなり地球から月までの距離を聞いてきたんです。思わずドキッとしました。そのときすぐに思い出せなかったんですが、知らないとはいえないです。はっきりした数字は覚えていなかったのですが、たしか「3」がつくということは分かったんです。3万キロは近すぎるし、300万キロでは遠すぎる。それで30万キロと答えました。番組が終わった後、急いで調べたら、正解は38万キロ。大きく違っていませんでした。

Q 2005年7月には「学長の宇宙夢ものがたり」を出版された学長。2006年の宇宙飛行士への「夢」について教えてください。

A 1983年、東京工業大学の助教授だったとき、宇宙飛行士の募集が行われたのですが、そのとき募集要項の制作にも携わる機会がありました。始め、応募者が少なかったため、私にも応募してほしいという話がありました。それで私も応募しようとしたのですが、締め切り2日前になって応募者が目標の100人を超えたんです。そうしたら、内部の者が採用されて問題になってもいけないからということで、結局応募は止めたんです。そのときは、それほど宇宙飛行士になろうという気持ちはありませんでした。しかし、1986年のシャトル・チャレンジャー号の事故で、毛利さん、土井さん、内藤さん(現在、向井さん)のシャトル搭乗が延期になり、チューターとして私が彼らのゼミを担当したとき、彼らの影響を受けて、だんだん気持ちが同化していき、宇宙飛行士になりたいと思うようになったんです。

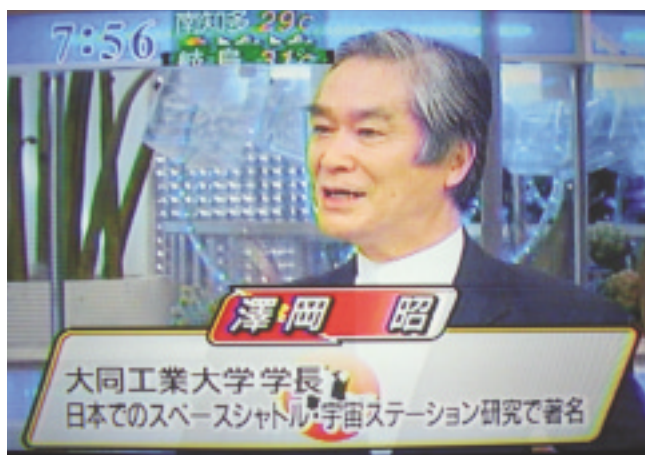
その後、国際宇宙ステーション利用計画の責任者となって日本の実験装置開発に携わることになりました。実は、私の仕事というのは完成後の宇宙ステーションを使いこなすことなんです。そのためには、完成した宇宙ステーションをこの眼で見る必要がある。ところで、日本人の宇宙飛行士第1号としては、1990年に秋山さんがTBSからロシアの宇宙船に乗りましたし、1992年には、毛利さんがシャトルに搭乗しました。1998年には、J.グレンさんが77歳でシャトルに搭乗して世界最年長の宇宙飛行士となりましたので、それなら自分は日本人最年長の宇宙飛行士になろうと思いました。しかし、先日ライブドアの堀江社長が宇宙旅行会社設立の発表をしました。つまり、誰でもお金を出せば宇宙に行けるようになってきてしまったんです。そうすると、日本人最年長の宇宙飛行士という希少価値は、なくなってくるように思いました。でも、人があつと驚くようなことはやってみたいという気持ちがありますから、今の夢は宇宙へ行って、もう帰ってこないこと。つまり、地球に帰るのではなく、宇宙に還った人になりたいと……。そんな心境になってきました。ですから、今の夢は「宇宙に還る人」になる。といったところでしょうか。

「学長、宇宙に還る」。まるでSF映画の世界のような「夢」。果たして学長の夢がかなう日は来るのか?学長が宇宙に行ける日が来たとしても、誰しも無事に戻ってきてほしいと思うであろう。

2006年は、学長にとってどんな年になるのだろうか。宇宙飛行士への期待はますます高まるばかりである!



「日本宇宙少年団 愛・地球博分団」結成式での特別講演



TBS「みのもんたの朝ズバッ!」(7月14日放送)

●澤岡学長の著書

「衝撃のスペースシャトル事故調査報告 ～NASAは組織文化を変えられるか～」

中災防新書(2004年7月発行)



2003年2月1日、スペースシャトル・コロンビア号が空中分解。その事故調査委員会報告から、NASAの対応を組織文化論から検証。大きな事故を克服しながら変貌してきたNASAの危機管理の姿から、日本の政府機関や企業の学ぶべき点を示している。

2005
NEWS

DIT『愛・地球博』に参加!

2005年は、愛知県で日本国際博覧会『愛・地球博』が開催され、大きな話題となった。この大舞台にDITも参加。各種イベントで活躍したので、その内容を一挙に紹介しよう。

モノづくりランド シンフォニア (名古屋商工会議所主催)

参加：西堀ロボティクス・ラボ(工学部 情報機械システム工学科 西堀賢司教授、同研究室学生)

期間：3月25日(金)～4月24日(日)

場所：長久手会場(モリゾー・キッコロメッセ)

内容：サッカーロボットとサーカスロボット(空中ブランコ)の実演。株式会社ナガラとの共同出展。



オレンジ色のボールを認知して自走する
サッカーロボット「DIT-RC」



参加者にサーカスロボットの説明をする高橋佑介君(05MM) (左)

れあるファミリースクール (れある:連合・労福協万博センター主催)

参加：エクステンションセンター

期間：4月21日(木)～26日(火)

場所：長久手会場(地球市民村)

内容：子供たちに宇宙や自然の不思議を感じてもらう工作教室と宇宙服の着用体験。



本学卒業生・児島先生による「宇宙授業」を
熱心に聞く子供達



澤岡学長が宇宙について講演。結成式には東海地区の団員ら400人が出席した。

日本宇宙少年団 東海地区協議会結成式 (日本宇宙少年団主催)

参加：澤岡昭学長、教養部 水野義雄教授

期間：7月17日(日)

場所：瀬戸会場(市民パビリオン対話劇場)

内容：愛知万博をきっかけに結成された「日本宇宙少年団(YAC)愛・地球博分団」。その結成式での特別講演として澤岡学長が講演。



美和奈津子さん(02A)と矢口太一君(02A)によるユニークなデザインのリサイクルベンチ



月をイメージしたベンチ。
建築学科卒業生 田畑雅行さん(01A)のデザイン。

“愛・地球博”応援イベント 『元気フェスタNAGOYA』 (名古屋市主催)

出展：工学部 建築学科学生(笠嶋泰教授)

期間：8月1日(月)～7日(日)

場所：ささしまサテライト会場 デ・ラ・ファンタジア

内容：リサイクルベンチ出展。建築学科の学生がデザインし、建築廃材の塩ビを再利用して製作したベンチを展示。「現代GP」の一環として実施。

基調講演で風力発電の有効性について
説明する佐藤教授



環境調和型の都市型 風力発電システムの 実用化について (本学主催)

参加：工学部 電気電子工学科 佐藤義久教授、同学科学生

期間：8月26日(金)

場所：長久手会場(EXPOホール)

内容：シンポジウム開催。地球温暖化防止と環境保全のため、自然エネルギーシステムの実用化とその将来展望について考え、「都市型・小型風力発電システム」の普及を提案。



電気電子工学科の学生達も大活躍

世界からくりコンテスト (主催:愛知県、東海テレビ放送 協賛:TOSHIBA)

参加：ロボット研究同好会 近藤弘恵君(工学部 情報機械システム工学科)

期間：9月18日(日)

場所：長久手会場(EXPOホール)

内容：クラシカル部門に応募し、世界各国の応募約500点の中から、最終審査に残る約20点に選ばれ、公開実演と最終審査に参加。



作品を説明する近藤弘恵君(03J)。
会場の司会者は、渡辺徹さんと久保純子さんだった。



■愛・地球博公式ウェブサイト・万博トピックスに掲載中!
<http://www.expo2005.or.jp/jp/E0/E1/0826.html>

打ち水大作戦2005 in愛・地球博2 『UCHIMIZU打ち上げFESTIVAL』 (財)2005年日本国際博覧会協会、 名古屋打ち水大作戦本部主催)

参加：工学部 都市環境デザイン学科学生(大東憲二教授)

期間：8月30日(火)

場所：長久手会場(愛・地球広場)

内容：来場者および会場スタッフと一体となった一斉打ち水と効果測定に参加。



お祭りのように盛り上がった打ち水大作戦。
なんと2,500人が参加。

工学部 機械工学科 堀美知郎教授、 燃料電池開発でNEDOと契約

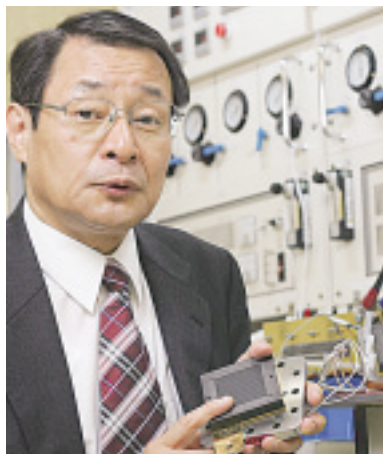
2005年 大同工大で国家プロジェクトがスタート

NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)の委託を受けて行う研究開発事業として、全国各ブロックを代表する研究機関のひとつに大同工大グループが選ばれた。研究費は年間5.5億円の予定。本グループは、堀美知郎教授をプロジェクトリーダーとし、立命館大学、三重大学、信州大学などの大学と複数の企業が参加。各機関の連携によって自動車用燃料電池実用化に向けた技術開発が進められる。

事業名：「NEDO固体高分子形燃料電池実用化戦略的技術開発事業」

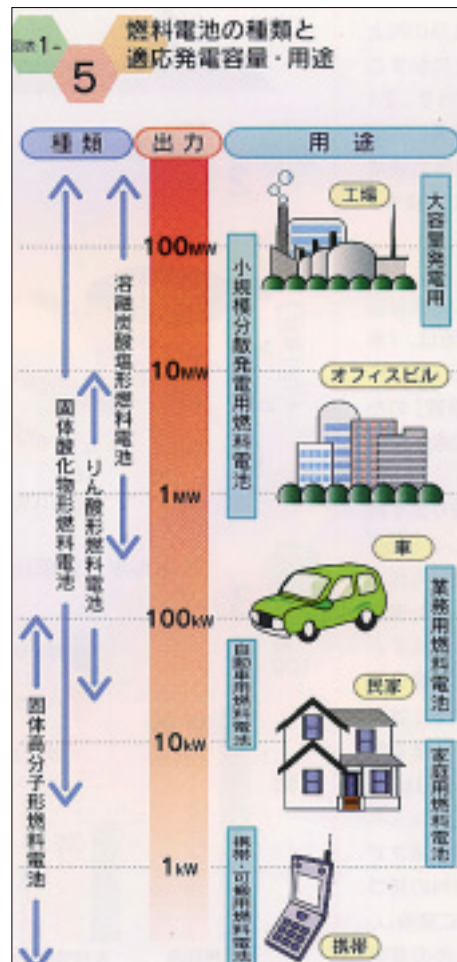
研究期間：平成17年度～平成21年度(5年間)

研究区分：「基礎的・共通的課題に関する技術開発」



水を制するものは 燃料電池を征する

本プロジェクトの重要なポイントは、発電時に発生する水の管理。堀教授は水管理の重要性について「水が乾いた状態で燃料電池を数千時間使うと、電解質膜が分解してなくなってしまう。だから、水の状態をコントロールすることは自動車の使用環境下で燃料電池を使用するためには避けて通れないテーマである。“水を制するものは燃料電池を征する”と言っても過言ではない」と語った。



センター内に燃料電池評価装置がずらりと並び



センター外観

「燃料電池研究センター」開設

11月24日、中部経済産業局で本プロジェクトに関する記者会見が行われた。堀教授から、研究概要や今後の予定などの発表があり、翌日、日本経済新聞、日刊工業新聞を始め多くの新聞で報道された。

11月30日には、本学に「燃料電池研究センター」が完成。この日、開所式が行われ、最先端の研究設備が披露された。現在、20台の燃料電池評価装置が設置されており、自動車のさまざまな運転モードを想定し、耐久性が評価されることとなる。装置は来年、再来年と20台ずつ増設され、最終的には60台、国内最大級の研究施設となる予定。本センター完成のニュースは翌日のNHKニュース、読売新聞などで紹介された。



■日本経済新聞
2005年11月25日



■毎日新聞
2005年11月25日



■読売新聞
2005年12月1日



■中日新聞 2005年11月25日

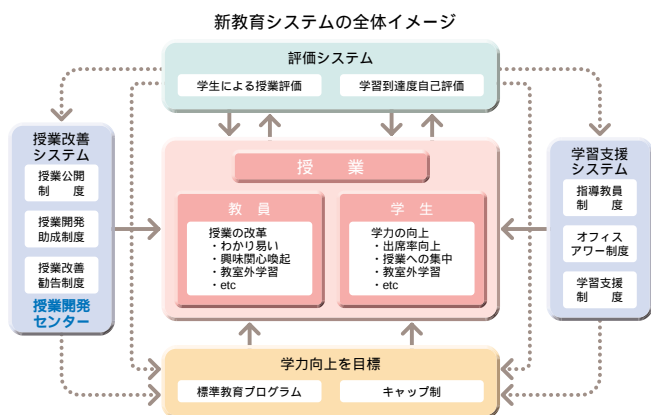
2006年4月スタートに向け、 「ロボティクス学科」の新設と 学科改組を準備

DITは、2006年4月に東海地区で初となるロボティクス学科を新設する。すでに専用の校舎を建設しており、3月に完成する予定。同時に、各学部で大幅な学科改組も行う。改組は大学院についても実施し、新たに図のような体制となる。



建設が進む新棟

特色ある大学教育支援プログラム GP 文部科学省 「特色GP」採択

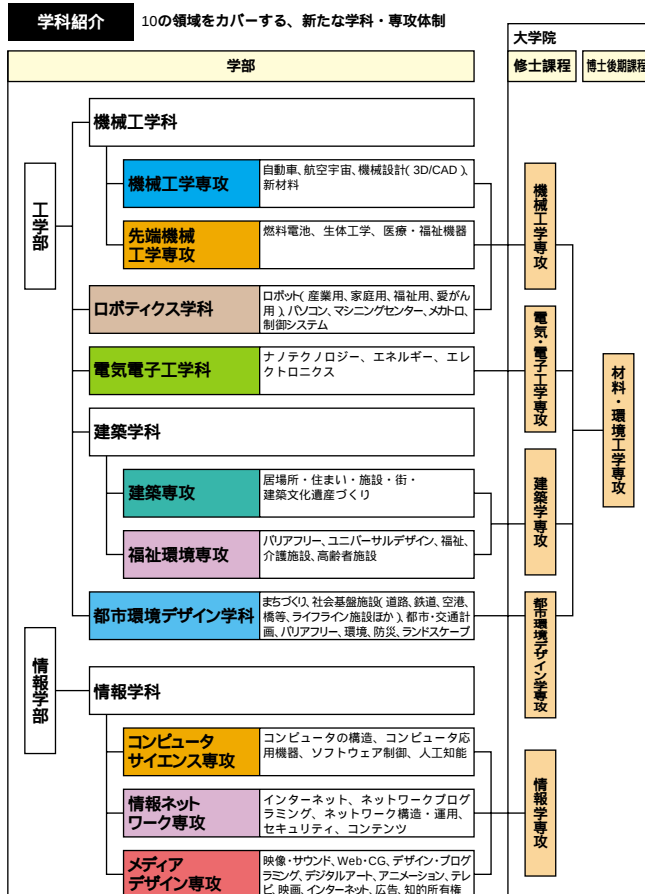


文部科学省による平成17年度「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」に本学の教育プログラムが採択された。特色GPとは、特色ある優れた教育改善活動を支援するためのプログラム。全国の大学・短大から410件の申請がある中、採択されたのは47件。採択率11.5%という状況で、本学の申請内容が評価された。

なお、平成16年度には「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)」にも採択されており、GPダブル採択という快挙となった。

平成17年度 特色ある大学教育支援プログラム

- 大学等名 / 大同工業大学
- テーマ名 / 主として教育方法の工夫改善に関するテーマ
- 取組名称 / 全教員を対象にした公開研究授業の組織化
～授業改善のためのフィードバック・ループ形成の試み～
- 取組担当者名 / 曽我静男(授業開発センター長、教養部教授)



A棟にダブル採択の文字が

採択のポイント

- 1999年のスタート以来、6年以上にわたって続けられている。
- すべての教員を研究授業の対象とし、全学を挙げて取り組まれている。
- 目的、方法、効果など、取り組みに関する情報を、学内外に公開している。
(事前に全体計画と原則を明示、終了後は「授業批評」誌を発行)
- 学生の単位修得率、学習到達度の向上などに成果が表れている。

体育大会



平成17年度 体育大会

体育の日を含む日程で開催された体育大会。天候不順のためサッカーは開催されなかったが、その他の競技は無事終了。参加人数は、395名となった。

開催日：10月10日(月)体育の日、10月11日(火)

場 所：滝春グラウンド、石井記念体育館

競 技：10日 サッカー、バドミントン、3on3

11日 ソフトボール、バレーボール、卓球

結 果：サッカー 雨天中止

バドミントン 1位 team帰宅部で!!

3on3 1位 林lice

ソフトボール 1位 軟式野球研究会

バレーボール 1位 太同犬朗

卓球 1位 史上最強軍団

2位 サントラ

2位 ガボン大佐

2位 昇天(気持ちい~)

2位 Arc drive

2位 風姫二太郎

3位 夏の想い出

3位 HIROSHI

3位 ウッキー

3位 05Jcニコニコ倶楽部

3位 ピンポン

レガッタ大会

2005年秋、DIT恒例の2つのスポーツイベントが開催された。
10月は「体育大会」。新企画として、参加者募集期間中に昼休み
時間を利用したミニゲーム大会も行われた。
11月は「レガッタ大会」。途中から雨が降り出すというあいにくの
天候となった。ここでは、各イベントの様子を写真で紹介しよう。

(写真提供:アルバム委員会)



第42回 錦杯学内レガッタ大会

途中から雨が降り出し、全ての試合を実施できなかったが、けが人もなく無事に
終了した。参加人数は、一般75名、クラブ115名と昨年を上回る200名近くとなった。

開催日：11月6日(日)

場 所：庄内川ポートコース

結 果：一般の部 優勝：山田錦、準優勝：筋肉室、3位：美山錦、4位：七笑
クラブの部 優勝：ピンクエンジェル(モーターサイクルスポーツ部)
準優勝：itoken(自動車部)
3位：小力ファイター(モーターサイクルスポーツ部)
4位：秘密結社ダブリ(吹奏楽団)

2005年 アメリカ短期留学

今回で第27回目となったアメリカ短期留学。参加者は、15名と例年より少ない人数ではあったが、その分学生達はよくまとまり、非常に充実した留学生活となった。オレゴン大学での英語学習やホームステイなどのほか、滞在期間中に誕生日を迎えた学生にはサプライズパーティが開かれるなどのイベントも。約1ヵ月間ではあるが、彼らにとって貴重な体験となったに違いない。

実施期間	2005年8月8日(月)～9月4日(日)
滞在地	オレゴン大学
主な旅行先等	オレゴン州立大学、オレゴンコースト、 クレーターレイク、ヨセミテ国立公園、 サンフランシスコ市内観光

なお、これまでのアメリカ短期留学の内容や参加者の様子などは、次のホームページで紹介しているので、ぜひご覧いただきたい。

■アメリカ短期留学のホームページ

<http://www.daido-it.ac.jp/ ametan>



2006年 アメリカ短期留学

募集



アメリカの文化、生の英語、そして人種を超えた人々と触れ合うことで、君の視野、思想は限りなく広がるだろう。また、ここでの体験と1ヵ月を共に過ごした仲間は一生涯の宝物となるはず。詳しくは、学生室で。



実施期間	2006年8月7日(月)～9月3日(日)
募集人員	30名(参加者多数の場合、面接等を実施し参加者を決定)
受付期間	3月初旬～5月中旬

フォーミュラプロジェクトとロボカップサッカーは、
本学の投資計画により支援されているプロジェクトです。.....

ロボカップサッカー 大阪世界大会で健闘

7月13日から17日、ロボカップサッカー世界大会が大阪市のインテックス大阪で開催された。本学のチームDIT-RCは、中型ロボトリグ(自律型)に参加。11ヶ国21チームが4ブロックに分かれた1次予選を見事突破した。デンマーク、イランのチームにそれぞれ4:1、4:0で勝利し、2勝2敗の勝ち点6。その後、12チームによる2次予選に進んだが、惜しくも敗退。準々決勝の8チームには残れなかった。しかし、2004年の日本大会初参加に次ぎ世界大会初参加で1次予選突破を果たしたことは、大健闘といえるだろう。

■ロボカップ2005大阪世界大会

(<http://www.robocup2005.jp/>)

開催日：2005年7月13日(水)～17日(日)

エントリー：11ヶ国21チーム

結果：1次予選突破 ベスト12



クラブ活動報告

クラブ活動をはじめ、各種イベントでDITの学生達が活躍している。ここで、2005年後半の活躍を報告しよう。なお、今回紹介するクラブ、選手については、大学から表彰されることとなった。彼らの活躍が本学の榮譽になった結果である。本紙でも彼らの榮譽を称えたいと思う。

ハンドボール部

- 愛知学生選手権
Aチーム：優勝 Cチーム：3位
- 東海学生秋季リーグ戦 一部
ベストセブン 02B 森山陽介君
- U-23日本代表強化指定選手
02B 久保宮大君 03J 雲井朋幸君



■詳細は、ハンドボール部のホームページを。
<http://dit-handball.hp.infoseek.co.jp>

バレーボール部

- 東海学生秋季リーグ戦 一部
7位
- 第6回西日本大学バレーボール
5学連男女対抗戦 東海選抜選出
03E 東 祐樹君



陸上競技部

- 第32回東海学生秋季選手権大会
10000m 8位
02C 奥野 拓君
3000m SC 8位
03J 道家崇文君



漕艇部

- 市民スポーツ祭 ダブルスカル
優勝(整調 02A 深谷 裕君
パウ 01E 石丸剛士君)
- なごやレガッタ ダブルスカル
準優勝(整調 02A 深谷 裕君
パウ 01E 石丸剛士君)



自動車部

- 2005 JAFカップオールジャパン
N2クラス 3位 / 22台 05MM 近藤 豊君
- ジムカーナ東海シリーズ
総合優勝 05MM 近藤 豊君
- ジムカーナ東海シリーズ第8戦
S1クラス 2位 / 21台
04EM 渡辺信吾君



軟式野球研究会

- 東海学生軟式野球
春季リーグ戦
ベストナイン選出
03C 高橋健太郎君



ロボット研究同好会

- 第8回ROBO-ONE大会
近藤科学賞、
パンプレスト賞受賞
02J 青木康宏君
- 世界からくりコンテスト
最終審査進出
03J 近藤弘憲君
- あいちITSフォーラム出展



■詳細は、ロボット研究同好会のホームページを。
<http://www.daido-it.ac.jp/robot-c>

フォーミュラプロジェクト、 全日本学生フォーミュラ大会で健闘

9月5日から9日、富士スピードウェイで開催された「第3回全日本学生フォーミュラ大会」に、本学から「大同工業大学フォーミュラプロジェクト」のメンバーが出場した。エントリーした「DF05車」は、全競技に参加し、耐久レースもみごと走破。結果は、表彰台にはおぼえないものの燃費部門で4位、コスト部門では6位と、あと一歩で入賞という好成績を収めた。来年度の上位入賞が、大いに期待される。



- 第3回全日本学生フォーミュラ大会
(<http://www.jsae.or.jp/formula/>)
開催日：2005年9月5日(月)～9日(金)
エントリー：45チーム
結果：総合.....20位(排気量450ccの中では3位)
コスト部門.....6位
燃費部門.....4位

「大同工業大学フォーミュラプロジェクト」では、新規メンバー募集中。詳しくは、A棟1205実験室まで。

大学院修了生 山口豊さんが 日本機械学会からフェロー賞を受賞



工学研究科機械工学専攻の修了生山口豊さん(03MM)が、2005年4月、「日本機械学会フェロー賞(若手優秀講演)」を受賞した。この賞は、山口さんの修了直前である2005年3月10日・日・11日に開催された「日本機械学会東海支部第54期総会・講演会」での発表によるもの。大学院生および企業若手研究者の意識高揚として優れた講演を行った者に対し、対象者の20人に1人の割合で贈られる名誉ある賞である。発表内容は、「ロボットハンド用超音波モータの駆動特性の最適化」。本学大学院生の模範となる受賞となった。

ハンドボール部卒業生 仲井友崇さん ドイツ・プロリーグで活躍!

仲井友崇(00C)さんは、現在ドイツ・プロリーグのハンドボールチーム「HSG - デュッセルドルフ」の1軍で活躍中。2005年3月に単身でドイツに渡り、1年目にして1軍の舞台でプレーするという快挙である。チームのホームページには、仲井さんのプロフィールが紹介されており、2006年も活躍が期待されている!

■ HSG - デュッセルドルフのホームページ
<http://www.hsg-duesseldorf.de/>



教員の新刊書出版

工学部建築学科 佐藤達生教授 『図説 西洋建築の歴史 美と空間の系譜』

2500年に及ぶ壮大な西洋建築の歴史を、豊富な図版とわかりやすい解説でよみとく決定版ガイド。ギリシア、ローマ、ルネサンス、ロマネスク、ゴシック、バロック、新古典.....これ1冊で、西洋建築の見方がわかる!!至高の芸術への旅。



佐藤達生 著
出版者 河出書房新社
発行日 2005年8月31日
定 価 本体1800円+税

中日新聞や専門誌で紹介されたほか、今年はこの内容に関連した名古屋市の講座も予定されている。



■ 中日新聞 2005年9月5日



■ 「芸術新潮」新潮社 2005年11月号

情報学部情報学科 茂吉雅典講師 『あしたよなあ』

「特攻隊の生き残り」として、ひっそり生きる岸上正夫に光りをあてた。大学生の孫・広和と自らの閉ざされた青春の地・鹿児島県黒島を訪れ、「戦争とは?」を追求。



茂吉雅典 著
高橋宏幸 絵
出版者 株式会社けやき書房
発行日 2005年11月20日
定 価 本体1700円+税

中日新聞で紹介されたほか、11月には岐阜放送に茂吉先生が電話出演。



■ 中日新聞 2005年12月26日
■ 岐阜放送「ゆうやけラジオ」 2005年11月28日

新任教員紹介



工学部 建築学科
助教授：清水郁郎
Shimizu, Ikuro

新潟県出身。大学進学とともに上京。その後、大阪、京都と関西で10年以上教育・研究に携わり、2005年から名古屋に。研究対象は住まいであるが、大学院博士課程時代から文化人類学も学んだ。論文の舞台となったのはタイ。実際に滞在し、住まいと文化について調査した。その後も国立民族学博物館の研究員としてタイで調査活動を継続。現地のアカ族と生活を共にし、言語を習得するまでに。教員としての経験は、建築と文化人類学の両方。立命館大や同志社女子大などで授業を担当。本学では、2006年4月から建築学科・福祉環境専攻に所属。担当は、「癒し論」、「感動論」、「福祉文化論」など。趣味は写真撮影。タイなどでの調査活動にも、その腕が活かされたとのこと。



稲の畑で「畑の持ち主」の霊にささげ物をしているところ。



着飾ったアカ族の女性たち。手に持っているのは竹の打楽器。



呪い師が祖先の魂に病気の治療を願う。



屋根の葺き替え風景。巨大な屋根なので、「結い」で作業する。

——清水先生がタイで撮影した写真——

就職トピックス 就職Topics

就職率100%維持のために 精力的な取り組みを!

2005年度 of 就職状況と 2006年度 of 就職活動

2005年度 就職概況と支援状況

2005年度の求人は、機械・電気系で大幅増となった昨年度よりもさらに増加。しかし、企業側は基準を下げた採用は行わない傾向にあり、中途採用や秋採用も増え、採用選考期間の長期化をもたらしている。これに対し、本学卒業予定者の内定状況は、10月まで昨年度を10%程度先行して推移。12月15日現在の内定率は、93.6%となった。現在未内定の学生については、就職担当教員、指導教員とキャリアセンターが協力し、学生が納得のいくまで相談に乗るという個別で親身な支援を実施している。

2006年度 就職活動本格化

1月から2006年度卒業予定者向けの求人票が公開されることになり、いよいよ本格的な就職活動がスタートする。希望企業に内定するためには、この時期に希望職種や希望企業を選定する必要がある。キャリアセンターによる3年次生対象の就職ガイダンスはすでに8回実施されており、残すところあと1回。2月には本学主催の企業説明会も開催されるため、重要な時期を迎えることとなった。

なお、2005年度は、初めて2年次生を対象としたガイダンスを実施。就職模擬試験や就職観醸成など、新たな試みも展開されている。



キャリアセンターの様子。パソコンや求人票で希望の企業を探す学生達。

本学の「就職」が ランクイン



順位	大学名	学部	就職率 (%)	順位
1	豊田工業大学	工	98.5	51
2	富山県立大学	工	98.1	52
3	秋田県立大学	経済学部	96.0	53
4	九州保健福祉大学	保健科	95.3	54
5	大岡山大学	工	95.3	55
6	秋田県立大学	生物資源科	95.0	56
7	青森県立保健大学	健康科	95.0	57
8	茨城県立医療大学	保健医療	94.8	58
9	静岡大学	情報	94.2	59
10	東京福祉大学	情報環境	94.0	60
11	静岡理工科大学	理工	94.0	61
12	金沢工業大学	工	94.0	62

■ 週刊東洋経済 2005.10.15号
「就職に強い学部(理系)」第4位

澤岡学長 ポーランドの研究所から 国際貢献賞を受賞

去る6月、澤岡学長はポーランド科学アカデミー物理化学研究所の50周年記念式典において国際貢献賞を受賞した。この賞は、同研究所の発展に貢献した外国人に贈られるものである。学長は約30年前にS.M.フリリベック博士（現在、同研究所副所長）と金属水素化物の共同研究を開始した。その当時、二人とも30歳代前半の若い研究者であった。それ以来、学長は固体物理学分野で、ポーランドと日本の共同研究を推進したばかりでなく、文化交流についても多くの貢献を行っている。研究所50周年を記念して設けられた国際貢献賞がアメリカ、スイス、日本の研究者各1名に贈られた。



特別公開講座 『ライブコミュニケーション^{がく}楽』開催

今、社会の一線で活躍している人物を講師として招き、現場の「生の声」を学生たちに伝える公開講座として『ライブコミュニケーション楽』（略称ライコミ）が開催された。この『ライコミ』は、9月から12月にかけて5回開催。毎回異なったジャンルの著名人が講師を担当し、これから社会に出る学生たちへ熱いメッセージを送った。学生達も講師とコミュニケーションを交わし、大いに刺激を受けていた。『ライコミ』には澤岡学長も参加、講座を大いに盛り上げていただいた。企画運営に際しては、本学学生による実行委員会が立ち上げられ、1年生を中心とした彼らも活躍した。

10月27日(木)	GAKU - MC氏 / ラッパー 「HIP HOP から学ぶ人生観」
11月10日(木)	ブラザートム氏 / ミュージシャン 「自分らしくあり続けること」
11月24日(木)	伊東茂樹氏 / 空間プロデューサー 藤田大輔氏 / キネマ旬報社事業部長兼 WEBマガジン「シアターパーク」 編集長 「空間プロデュース論」
12月 8日(木)	新川義弘氏 / (株)リックワン常務取締役 「サービスの神様」
12月22日(木)	渡辺一平氏 / サッカー解説者 「日本のサッカーを考える」



『ライコミ』は、高校生向けにフリーペーパーも発行され、2005年の本学の魅力の1つとして発信された。



渡辺一平氏
(写真撮影：実行委員会)



伊東茂樹氏と藤田大輔氏
(写真撮影：実行委員会)



GAKU - MC
(ガク・エムシー)氏

ブラザートム氏



新川義弘氏(写真撮影：実行委員会)

『産学交流テクノ フロンティア2005』に 3研究室が出展

10月26日から28日、名古屋市中小企業振興会館吹上ホールで開催された『産学交流テクノフロンティア2005』。中部の中小企業が開発した新技術・新製品や、理工系大学・公設試験研究機関などが取り組んでいる最先端の研究内容・成果を展示・紹介するイベントとして毎年開催されている。2005年も本学から3つの研究室が出展。来場者の関心を大いに集めた。

■本学出展内容

- (1) 小型風力発電システムの応用模型や形状記憶合金を用いた新発電システム実験装置等
(工学部 電気電子工学科 佐藤義久研究室)
- (2) スピンエレクトロニクス関連の研究
(工学部 電気電子工学科 神保睦子研究室)
- (3) 土壌汚染の浄化技術とデモ実験『油汚染土のスピード浄化法』
(工学部 都市環境デザイン学科 棚橋秀行研究室)



建築学科 笠嶋教授 コーディネーターとして シンポジウムに参加

11月22日、名古屋市南区の南文化小劇場で開催されたシンポジウム『南区区民のつどい』に、工学部建築学科の笠嶋泰教授がコーディネーターとして参加した。テーマは、地域の共生によって子どもをはぐくむというもの。笠嶋教授の進行により、パネリストの事例発表と会場参加者も交えた全体討議が行われた。シンポジウムには、名古屋市の松原市長のほか多くの参加者が来場。盛大な拍手とともに閉会した。



情報機械システム工学科 近藤教授『日本設計工学会 功労賞』受賞

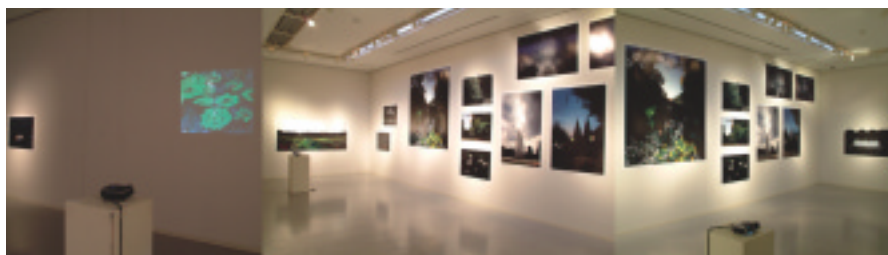


工学部情報機械システム工学科の近藤徹教授は、永年にわたり設計工学教育に従事し、優れた人材の育成をもとに設計工学の発展に寄与した功績により、日本設計工学会から功労賞を受賞した。

また、近藤教授は、以前にも愛知県知事や中央職業能力開発協会および愛知県職業能力開発協会、中部産業連盟からも表彰されており、今回で6度目の表彰となった。

情報学科 櫃田助教授 名古屋市民芸術祭2005 『人工夢』出展

10月19日から30日、名古屋市民ギャラリー矢田で名古屋市民芸術祭2005主催事業として開催された美術部門企画展『人工夢』に、情報学部情報学科の櫃田珠実助教授が作品を出展した。庭園、花、空をモチーフにしたアート作品は、プリントとプロジェクターによる展示によって、空間を鮮やかに演出した。



デジタルプリントの制作はすべて キヤノン株式会社 総合デザインセンター のサポートで行っている。
映像作品のシステムプログラム:原田昌明



都市環境デザイン学科 大東教授 『土壌・地下水汚染対策セミナー』 を開催

11月25日、愛知芸術文化センターで愛知土壌・地下水汚染対策研究会による『土壌・地下水汚染対策セミナー』が開催された。テーマは、名古屋市における土壌汚染対策事例とリスクコミュニケーション。会場では、この会の会長を務める工学部都市環境デザイン学科の大東憲二教授が挨拶を行い、研究会の目的や活動内容について説明した。

オープンキャンパス2005 多くの高校生が参加!

DITでは、2005年もオープンキャンパスを開催、多くの高校生が参加した。5月の大学祭期間中のほか、8月8日の夏季、10月1日の秋季というスケジュールで開催され、学科ごとに「ミニ講義」、「模擬実験」が実施された。DITのオープンキャンパスは、他大学にみられるような自由見学形式と異なり、「質の高い授業力」や「実験のおもしろさ」を体験してもらうことを目的とし、学科単位でプログラムを用意している。時代の先端を行く「高い研究力」や組織化された熱心な「教育力」に直に触れ、参加者の学科に対する理解や、ものづくりに対する興味はさらに深まったようだ。



滝春校舎で防災訓練実施

非常時に学生の身の安全を守るため、11月21日に滝春校舎の第1講義棟(B棟)、ゴビーホール(C棟)で防災訓練が実施された。B棟1階の厨房から出火したという想定で、非常警報を発令。教員や事務職員の誘導により学生たちが、図書館前広場に避難した。避難後、澤岡学長から講評があり、消火器を使用した消火訓練も行われた。



アルバム委員会 ホームページ開設!

アルバム委員会の活動内容は、卒業アルバムの製作。そのため、委員会メンバーは、本学で開催される行事やイベントに参加し、その様子を写真撮影している。アルバム委員会では、12月にホームページを開設。今までの写真はもちろん、委員会からのお知らせも掲載されている。アクセスはこちら。

- アルバム委員会ホームページ
<http://d-album.sakura.ne.jp>



DITホームページリニューアル!

10月28日から本学のホームページがリニューアルされた。平成18年度の新学科・専攻やトピックスのページなどを新設し、内容も充実。DITの新しい情報は、その都度ホームページで紹介されているので、ぜひご覧いただきたい。

- 大同工業大学ホームページ
<http://www.daido-it.ac.jp>



人事

退職 / H17.9.30付

特別嘱託職員

草加 勝司 / 客員教授・学習支援センター

採用 / H17.10.1付

専任教育職員

清水 郁郎 / 工学部 建築学科 助教授

嘱託職員

原田 恵 / 教育・学生支援部 教務室

特別嘱託職員

鰐部 吉基 / 学習支援センター

採用 / H18.1.1付

専任教育職員

溝口 正信 / 工学部 ロボティクス学科準備学科長付 教授

宮元 健次 / 工学部 建築学科 教授

小高 直樹 / 情報学部 情報学科 助教授

編集後記

2006年がスタートしました。4月からは、新学科や改組による新体制が始まります。時代とともに変貌するDIT。本紙では、今年もDITの動きをお伝えしていきます。

2005年は、学長のテレビ出演、『愛・地球博』参加、GPダブル採択など大きな話題がありました。2006年も学生諸君や先生方の活躍に期待が高まります。本紙でもその様子をどんどん紹介していきたいと思います。

2006年は、あまり知られていない本学の情報についても発掘していきたいと考えています。取材の際は、本紙へのご協力をよろしくお願いいたします。

